



2年2組 土子 真衣「わたしのたからもの」

私の愛読書は『やさしいあくま』という絵本です。この本はいつでもすぐ読めるように机の本棚にあります。勉強の合間や、夕ご飯を食べて部屋に戻った時とかにふと読みたくなって開きます。『やさしいあくま』はいつ読んでも温かい気持ちになれるので大好きです。他にもいいと思う絵本はたくさんあります。わたしにとって絵本は、ちょっと大袈裟だけど自分を元気にしてくれる唯一無二のものだと思っています。何故かという、絵本は本の世界にすぐ入れて、主人公と泣いたり笑ったりしているうちに嫌なことも吹き飛ばしてくれるからです。あと絵本ってすごいなあって関心するのは、文章と絵がぴったり合っていて、短いお話なのに、友情とか、生死とか、人権とか、難しいテーマについても小さな子どもにわかる言葉で物語になっているところです。私は心にじんときくる絵本が好きですが、いろいろな絵本があります。皆さんも自分を元気にしてくれる1冊を探してみませんか。

—土子さんの好きな絵本 ベスト3撰—

はじめてのおつかい 福音館
作：筒井頼子
絵：林明子

ママに頼まれて牛乳を買いに出かけたみいちゃん。みいちゃんの胸のドキドキが聞こえてきそう。

やさしいあくま 福音館
作：なかむらみつる

病気のおばあちゃんと暮らす男の子ふうと、あくまのチュチュとの友情のお話。

こんとあき 福音館
作：林明子

ぬいぐるみのこんのほころびをおばあちゃんに直してもらうために旅にでたこんとあき。お互いを思いやる二人に胸が熱くなります。

2年2組 内山 俊祐「どたん場でひらめいた」

セットカウントは3対1で、結果だけ見たら僕のボロ負けだった。けど、県大会に何度も行ってるヤツから1セットとれたことはほんと、いい思い出。いま思い返してもグツとくる。大会の正式名は忘れたけど中3の卓球地区大会だった。2回戦を勝って手持ちのトーナメント表をなぞると、次の対戦相手が分かった。おれ、ここで終わるわ。3回戦の相手はいつも上位に入る実力者だった。勝てる気がしなかった。弱腰だった。1セット目。球の回転が分かりづらいフォームを意識して横回転で出したら、サービスエース。次、今度は横下回転を出したらまたサービスエース。「やった！練習の成果が出た！」と喜んだのも束の間。手法に慣れてきた相手にどんどん点を入れられて1セット目は負けた。2セットめ。自分のサーブの時、ふと、1セット目と同じクロスじゃなくてストレートにしたら、コイツはとれるのかな。と思いついた。そしてストレートでいってみた。相手は急にフォアからバック側に来たらとれなかった。「よし！けど、さっきみたいに続けちゃだめだ。3本に1回にしよう。我ながら冷静な判断だった。それから打ち合った。球の軌道を瞬時に判断してうち返す。またうち返す。どんどん集中していく自分がわかった。そして僕の得点カードが変わっていった。9点。いけるかも。10点。このまま行ってくれ。ついに11点。2セット目を取り返した。けど、3セット、4セットはどちらも3点差くらいで負けた。結局セットカウント3対1で負けたけど、あの時が僕の超集中試合。すごく楽しかった。卓球はラリーの応酬っていうシンプルなゲームだけど、相手の心理を読んだり、球の回転と球を繰り出す技術によって変化する奥の深いスポーツだと思う。いま自分は卓球から離れているけど、また卓球やりたいです。



打ち返す力 講談社
著：水谷隼
東京オリンピックを沸かせた水谷選手の最新本

—長塩君おすすめの雑誌—

ワールドサッカーダイジェスト：日本スポーツ企画

この雑誌は、日本では知られていない現地の海外記者の意見や、有名なクラブチームの選手のインタビューが詳しく書かれています。選手がチームとして何を徹底するのか、自身がどのような目標を持ちどんなプレーをしてチームを支えているのかという個人としての思いなどを分かりやすく伝えてくれています。毎回年齢問わず読める記事があって、今では引退してしまったレジェンドの秘話や様々なチームの歴史、歴代の活躍した選手の紹介などといったサッカー好きにはたまらない内容です。

トピック

昨年コロナ感染拡大防止のため無観客で行われた全国高校サッカー選手権大会でしたが、今年は観客を動員して開催されることが決まりました。100回を記念する今大会の地区予選ポスターには、人気サッカー漫画7作品のキャラクター（「キャプテン翼」「オフサイド」「シュート!」「ファンタジスタ」「DAYS」「BE BLUES!」「ブルーロック」）が集結しています。

2年3組 長塩 隼「思いがけない縁」

僕は中学校の3年間サッカー部に所属していました。サッカー部での1番の思い出は、3年の総体で1勝することが出来たことです。自分がキャプテンだったこともあって最高に嬉しかったです。なので高校でもサッカー部に入りたいと思いましたが、九十九里高校にサッカー部はありませんでした。サッカー以外の運動部のどこかに入ろうかとも考えましたが、気持ちが動かなかったのも、僕の心は宙に浮いていました。それから少しして友達に誘われて箏曲部に見学に行きました。初めて触れた琴の音は新鮮だったので、とりあえず入部してみることにしました。箏曲部では人前で演奏する経験を初めてしました。それから1年の秋に生徒会に立候補することになって、今年度は会長を務めています。僕がこの数年間を振り返って思ったことは、最初に考えていた高校生活とは違ったけれど、目の前の縁を受け入れて一所懸命努力することで、思いもよらない経験をして、自分の世界を広げることが出来たということです。サッカー部を続けることはできなかったけれど、高校2年でがんばろうと思えることが二つ出来たことは良かったと思っています。